

神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol.20, No.4, 通巻95号 2017.3.15 発行

身近な自然シリーズ（その50）

スキマ時間に干支を見つけよう

学芸員 加藤 ゆき

バードウォッチングと聞くと、どのようなイメージを抱きますか？鳥が居そうなところに出かけ、双眼鏡で野鳥を見つけ、図鑑とにらめっこをしながら種名を調べる、という意見が大半かもしれません。しかし、もっと気軽にバードウォッチングを楽しむことができます。それはスキマ時間に鳥を見るのです。私の場合のスキマ時間は朝、家から駅までの15分ほどの通勤路で、鳥を探しながら歩きます。双眼鏡を持っているわけでもなく、望遠レンズのついたカメラをさげているわけでもありません。ただ周辺の庭木や芝生、街路樹に目をやり、鳥がいないか探すスタイルです。

今の時期でしたら、庭木にはヒヨドリやシジュウカラ、メジロが木の実や花の蜜を食べにきています。草地ではムクドリやキジバト、ツグミが餌を探し、電線の上にはモズが止まっています。柵の上に止まっているジョウビタキは、去年も同じ場所で見かけました。3面護岸されている川にはカルガモとマガモが群れを作り、時おりカワセミも目の前を横切ります。街路樹にはカワラヒワが群れで止まり、ハクセキレイが歩道に下りてせわしく歩き回っています。

いわゆる普通種が多いのですが、ちょっと変わった鳥を見つけることもあります。そんなときは、スマートフォンを取り出して写真を撮ります。スマホで撮影した画像には、日時だけではなく位置情報も記録され、最近のものは画質もよくなっています。図鑑のような大写しの写真は撮ることができませんが、記録としては十分に活用でき、そのように撮影したいいくつかの画像は、博物館の収蔵システムに登録をしました。

目次

身近な自然シリーズ ……1	わたしの選ぶ“この一冊”…7
活動報告 ……2～6	友の会より ……8
情報クリップ ……6	行事案内 ……8～10

この冬、一番のヒットは秦野市今泉名水桜公園で見つけたオカヨシガモです。2016年11月25日に11羽を確認し（写真）、終認は12月25日で16羽にまで増えていました。しかし、年明けの1月4日に通りがかったときには確認できず、それ以降も見かけませんでした。年末の寒波到来にともない、さらに南へと移動したのかもしれませんが。オカヨシガモは神奈川県には冬鳥として渡来し、相模川などの大きな河川の中流域や河口などで比較的良好に見られるカモの仲間です。そのような鳥が内陸の小さな池に1ヶ月も滞在したことは、ちょっとした驚きでした。

ここまで読んで、自分には鳥を見分ける技能はないし、そもそも見分けられるだけの距離に鳥は来ないので、そんなバードウォッチングなんてできない、と思われるかもしれません。しかし、鳥は人間との距離をうまくはかって生きています。たとえば市街地でくらす鳥は、追い掛け回さない限り割と近くで見られます。見ることができれば、図鑑などで種名を調べることもでき、写真を撮っていれば学芸員に尋ねることもできます。今年の干支は「酉」です。スキマ時間に干支を見る、みなさんも挑戦してみてくださいませんか？



秦野市今泉名水桜公園のオカヨシガモ（黒丸で囲んだところ）
(2016年11月25日撮影 KPM-NQB62)

◆ 活 ◆ 動 ◆ 報 ◆ 告 ◆

第122回 サロン・ド・小田原

見たい！知りたい！調べたい！ 身近な野生動物

2016年11月5日(土)／博物館講義室／講演29名、交流会21名／話題提供：鈴木 聡学芸員

14：00スタート、16：20終了の形でのサロン・ド・小田原は初めての会であった。開館時間内での開催なので、その場での飛び入りのお客さんが多く参加してくれることを期待した。第2部では親子連れも含めて7～8人の人たちが展示された剥製を見て楽しまれたようである。

鈴木聡学芸員は、この4月に採用されたばかりの新人学芸員であり、講演会デビューであった。自己紹介が、生まれから現在に至るまで丁寧に話され、本題のイタチの話へと進んだ。イタチを研究対象に選んだのは、比較的広範囲に分布し、サイズも小型で、扱いやすいと考えたからだそうだ。日本にはニホンイタチとシベリアイタチが居るそうで、東日本にはニホンイタチだけが、西日本にはシベリアイタチとニホンイタチが混在する状況のようである。シベリアイタチは中部地方の山地を越えられず、留まっているが、やがては東日本にも入ってきそうな予感を感じた。当然、この2種の見分け方が気になるが、シベリアイタチの方がニホンイタチより体の大きさが少し大きく、ニホンイタチは顔が少し白っぽいということだった。また、雌は雄より小さいと言うことで、識別の方法を聞いている内に益々、見分けが難しくなった。



講演中の鈴木聡学芸員

第2部は、東講義室に準備されていた小型は乳類の剥製標本を利用して行なわれた。標本の並んだテ

ーブルの輪の中に松本涼子学芸員も入り、クイズを織り込みながら、参加者と目の前で質疑の応答が続いた。広谷学芸員や博物館の職員も応援に入り、新人学芸員への温かい支援を感じた。また、この形式は、参加者が学芸員をより身近に感じることができ、良かったと思う。



楽しく応答

最後に、ハプニングがあった。数日前に、静岡県御前崎にあがったと言う動物の骨格が紹介された。漂着物学会会員の佐藤さんご夫妻が鑑定を依頼してきたもので、この機会に、皆さんと同定しようということになった。参考資料の提示もあり、結果はカンガルーの仲間とまで分かったが、さて、そんな動物の骨がどうやって海岸にたどり着いたのか。謎が残った。発見者の佐藤さんご夫妻も最後に感想をお話になり、サロン・ド・小田原の2時間半を楽しまれたようだ。

(飯島俊幸)



佐藤さんご夫妻（左側）のお話

よろずスタジオ

木の実・草の実で楽しい工作

2016年11月13日(日)／博物館講義室／67名（大人37名、子ども30名）／講師：スタッフ7名

秋たけなわの11月。野山には赤・黄・黒・青、さまざまな色の実がみのります。今日は秋の実をたくさん使ってリースやコマ作りを楽しんでもらいました。工作に入る前にまず【知っている実があるかな

？】のコーナーへ。カラスウリ、ピラカンサ、ドン
グリ、モミジの4種類の実を並べましたが、その全
部に沢山の“知っているよ”シールが貼られ、どれ
も馴染みの実のようでした。



たねはどのように運ばれるのだろう

次は【たねはどのように運ばれるかな？】のコー
ナー。

- たねは ①パチンとわれる・とびだしていく
②コロコロころがっていく
③風にのって遠くへいく
④動物に食べてもらう
⑤動物の体にくっついていく

などの方法で親元を離れ新天地を求めていきます。
机の上に並べてあるたねが①から⑤のうちどの方法
で運ばれるか、スタッフが適宜説明を加えワークシ
ートにたねを貼ってもらいます。たねをセロテープ
で貼るのは小さい子には結構大変ですが、オオオナ
モミなどの「ひっつき虫」は用紙に布を貼っておい
たのでセロテープ無しでひっつくことを実感しても
られました。そのあとでお目当ての【ミニリースづ
くり】です。参加者が「こんなにいろいろな種類の
実があるなんて知らなかった」と言われたほど、に
ぎやかに並んだ実を使ってリースづくりを楽しんで
もらいました。土台となるリースもアケビ、サネカ
ズラ、ムベなどを丸めて用意しました。出来
上がった素晴らしい作品の一例は写真をご覧
ください！



どの実を使おうかな

参加された多くの方
から多種多様な実を飾
り付けるのが難しくも
あり、また面白かった
との感想をもらいまし
た。少し手先の器用さ
が必要で、お子さんは

年長さんくらいから小学生の挑戦が多く、保護者の
方も夢中になっていました。

今秋はどんぐりが不作のようで、コマに適したク
ヌギのどんぐりが集められませんでした。どんぐ
りコマを作りたい子はマテバシイやアカガシのどん
ぐりで挑戦しました。作ったあとにうまく回ったコ
マを見て喜ぶ笑顔がうれしかったです。(田畑節子)



親子3人のリース

よろずスタジオ

生きている化石： ラブカとミツクリザメを観察しよう

2016年12月11日(日)／博物館講義室／190名(大人
132名、子ども58名)／講師：瀬能 宏学芸員・林
魚類ボランティア

12月は恒例の魚の観察。観察に供されたのは、比
較的深海に棲むミツクリザメとラブカ。両方とも一
般的にイメージするサメとは違って、体は細長くブ
ヨブヨしています。サメは浮袋を持っていないので
海中を上下しやすく、また、体をブヨブヨにするこ
とで沈みにくくしています。サメ肌の体験と、生え
変わるための歯があごの中に準備されている様子を
主な観察点とし、二種のサメを各テーブルに置き、
来館の家族に観察とスケッチをしてもらいました。
ラブカはえらが六枚もあり、怖い顔をしています。

ミツクリザメは口がきちんと閉じない特徴があり、
歯の様子が見やすく打ってつけです。あごの骨と頭
骨を共にケースの中に展示しました。現在使用中の
歯の後ろに数組の歯が整然と並ぶ様を見た大人子ど
もから「お～」と一様に声が上がり、知識として知
っていても、やはり本物を見るのは違うと実感させ
られました。「百聞は一見に如かず」の好例でした。
その他、アルコール漬けの標本11種を展示しました。

・卵のうを持ったラブカの胎児

- ・ネコザメの卵と胎児
- ・トラフザメの卵と胎児
- ・ヤモリザメ
- ・かまぼこの材料に使われるアブラツノザメ
- ・発光器を持つフジクジラ、カラスザメ
- ・泳ぎ上手のヨシキリザメ胎児
- ・生きている化石ギンザメ、アカギンザメ
- ・小さいサメのオオメコビトザメ

サメというと人食いザメのイメージがあるのか、大人の方の訪問数の多さが際立っていました。「なかなかできない体験ができるこういう催しはありがたい」という感想も多く聞かれました。（赤堀千里）



いろんなサメの標本



長いな～ 紙からはみ出ちゃう



大人も熱心

地学G活動記録

セラドン石でストラップをつくろう

2016年12月18日(日)／博物館実習実験室／20名／講師：田口公則学芸員・山下浩之学芸員・門田真人氏（外来研究員）

古代人が管玉に使い、小学生時代の田口学芸員を探究活動に向かわせた緑色の魅力的な石、それが丹沢のセラドン石でした。今回は古代人の作業を思い浮かべながら、粗さの異なる5種類の耐水ペーパーを使って約90分間セラドン石をひたすら磨きました。山下学芸員の「磨けば磨いただけ愛着が出る」という言葉に励まされながら小学1年生の子も最後まで磨き上げ、世界で一つだけのピカピカのストラップを完成させ、みんな大満足でした。（渡邊 裕）

【スタッフからの一言】本講座は、企画展（石展2）関連行事として歴史博物館との共催にて企画、実施しました。老若男女の皆さんにセラドン石を一生懸命かつ楽しく磨いてもらい、写真の様な素敵なストラップ作りを体験して頂きました。（中村 良）



世界に一つだけの素敵なストラップができました



僕も一生懸命磨いたよ！



田口学芸員によるセラドン石の解説風景

よろずスタジオ

砂とあそぼう！

2017年1月15日(日)／博物館講義室／212名(大人113名、子ども99名) 講師：石浜佐栄子学芸員・地学ボランティア

砂の性質のうち、流れる砂の作る模様、流れ下った砂の作る一定の角度(安息角)の斜面などを簡単に再現できるおもちゃを作ることになりました。ガラスやアクリルの板の間に、粒度のちがう砂粒と水を封じ込めると面白いものが見られることは知られていましたが、安い材料を用いて水は使わないという条件のもと、いろいろと試行錯誤しました。容器としてプラスチックのカードケースを使うことに落ち着いた後、粒度のちがう2種類の砂の大きさ、それぞれの砂の量など、20種類ほど試作して、使用する砂や分量を決めました。このおもちゃを、砂流絵紋(さるえもん)と名づけました。

プラスチックのカードケースは静電気が起きるため、あらかじめケースの内側に静電気防止剤を塗っておき、お子さんに砂を選んで入れる手順などを決めて、当日をむかえました。ケースに砂を入れ、テープでふたをすところは、スタッフが行いました。

当日は、合計85名の方に砂流絵紋を作ってもらうことができました。子どもたちが出来上がった砂流絵紋を傾けて、しま模様がでる様子を試していました。私たちのねらいが、うまく伝わっていると良いのですが。

また会場には、私たちが作ったものも含め、砂にまつわるおもちゃをいろいろと並べ、“砂のふしぎ”を体験してもらいました。

(地学ボランティア金曜グループ)



砂流絵紋の作りかた



上手にできたかな？



これが砂流絵紋です



粒度のちがう2種類の砂を混ぜて、一点から落とすとできる縞模様の山(松井理作氏製作)



数種類の砂と水を、2枚のガラス板の間に封じ込めた玩具作品(庄司文子氏製作)

地図を楽しもう

2017年1月28日(土)／博物館実習実験室及び博物館周辺・箱根湯本・塔ノ沢／5名／講師：新井田秀一学芸員

午前中は、地形図「2万5千分の1箱根」を徹底的に読みこむことで、地図のしくみや地図記号など、地図情報の取得のコツを学びました。

午後は読み込んだ地形図を携行してのフィールドワークです。博物館を出て箱根湯本方面へ。土木遺産登録の山崎発電所や国道1号線の水準点を確認して、一気に牛頭天王社の階段を登り標高110mの地点へ。等高線に沿ってしばらく歩き三枚橋へ降りて箱根町役場から早雲寺。その間いろいろな地図記号と実物の様子を観察しました。地図に温泉記号のある湯本源泉と熊野神社で終了時刻となり解散。余力のある方は旭橋を渡り、荻窪堰取水口を見て、函嶺洞門、千歳橋から塔ノ沢駅まで歩きました。天気にも恵まれ地図を持っただけの散策は楽しく、様々な情報を得るコツを学びました。帰りの電車で「楽しく充実した講座でした」とのお言葉をいただきました。ありがとうございました。（関口康弘）



午前中の講義



牛頭天王社の入口



湯本源泉（横穴式源泉）の跡

〈情報クリップ〉



- 会員数478名 2月9日現在
(正会員477名、賛助会員1名)

- 会員更新の手続きについて
会員更新の手続きは、お済みですか？

2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認の上、手続きをお願いいたします。
※振込用紙は次年度会費をお支払い済みの会員様にも送付しております。ご了承ください。

- 第21回友の会総会及びイベントにご参加ください！

2017年4月9日（日）博物館 S E I S A ミュージアムシアターにて、13時より友の会総会、14時10分より総会イベント「友の会20周年を迎えて」講演・シンポジウムを行います。ぜひ、ご参加ください。

- 「子ども自然科学作品展」開催のご案内
小・中学生のみなさんによる日頃の研究成果・作品を発表する場として「子ども自然科学作品展」を開催いたします。県西地域の小・中学生の作品を展示します。たくさんの力作をご家族や友人をさそって見に来ませんか。

出品されたすべての作品に博物館学芸員のコメントが付けられています。

開催期間：3月18日（土）～5月7日（日）

観覧料：無料（常設展は有料）

問合せ先：神奈川県立生命の星・地球博物館
企画普及課

電話0465-21-1515



わたしの選ぶ“この一冊”



『日本産有剣ハチ類図鑑』



寺山 守・
須田博久（著）
東海大学出版部
（2016）

772ページ

学芸員
渡辺恭平

ハチは腰のつくりと針の使い方によって、おおざっぱに3つのグループに分けられます。針を産卵管として使用し、植物に卵を産み、幼虫も葉っぱや木を食べるグループ（広腰亜目）から、腰がくびれ、腹部をしなやかに動かすことができ、産卵管を獲物に突き刺し卵を産み付け、寄生を行うグループ（細腰亜目の有すい類）が進化し、さらに産卵管で獲物に麻酔をかけたり、敵から身を守る武器として活用する習性や、巣をつくる習性を身に着けたグループ（細腰亜目の有剣類）へと進化したのです。今回紹介する「日本産有剣ハチ類図鑑」は、細腰亜目の有剣類のうち、アリとハナバチ類を除いた日本産の全ての種を扱う図鑑です。この本は、日本ではじめての本格的な有剣ハチ類の図鑑であり、私たちハチ好きにとっては、長年望み続けた「夢の本」です。

数多い昆虫の中で、ハチの仲間はハエの仲間とともに、研究が遅れている一群で、その原因の一つに、種名を調べる（同定といいます）が難しいことが挙げられます。チョウやクワガタムシ、セミについては、たいてい上から見た背面の姿だけで区別ができ、写真と比べるだけで種名が分かることがたくさんあります。また、顕微鏡や特別な知識が無くてもたいていは調べることができます。ところが、ハ

チやハエは横から観察したり、顕微鏡で見なければ種名がわからないことが多く、昆虫のからだのつくりを勉強していないと名前が調べられません。しかもこの図鑑がでる以前は、英語の論文や、きわめて入手が難しく、図書館を通して複写依頼をしなければ集められないような専門の雑誌にのみ、区別点の手引きが載っているだけで、昆虫全般を扱う図鑑に載っているほんのわずかな種を頼りに同定をしてみても、結果はまちがいで、つい最近までハチの仲間では比較的同定の容易なスズメバチやアシナガバチでさえ、苦労しながら種名を調べていたのです。

いまだに多くの場面で顕微鏡が必要なことには変わりありませんが、この本のおかげで、その苦労は何十分の一にも軽減されました。多少とも高価な図鑑ですが、その情報量と、調べるための文献収集が減ることを考えれば、その価値は価格の何倍にもなります。また、図鑑のプレートで使用されているハチのほとんどは著者の一人、須田博久さんが標本にしたもので、驚くほど美しく展翅、展足されており、感嘆のため息がでます（須田さんの標本技術は間違いなく世界一でしょう）。この図鑑は実用面だけでなく、ハチの美しさを体感する写真集としても、楽しむことができるでしょう。

図鑑には写真だけでなく、解説や種名を調べるための検索表も掲載されており、目立たない点ですが、図鑑の利用価値を左右する重要な項目であるといえます。本書の解説は初心者には少し難しいかもしれませんが、今までと比べると、その難易度は格段に下がっており、中学生や高校生でもがんばれば理解できる内容であると言えます。私が高校生の時は、ハチは調べたくても手がだせない昆虫でしたが、これでやっと調べられる土台ができました。ハチに興味がある人は、この図鑑をきっかけにハチの世界に踏み込んでみてはいかがでしょうか？

最後にちょっと自慢ですが、私は珍しすぎて須田さんの手元に標本がない2種のハチを、この図鑑に提供しています。2種とはツマキアナバチとキマダラツチスガリで、後者は博物館の研究報告に報告しています。これらの標本は現在、生命の星・地球博物館の収蔵庫にあるので、バックヤードツアーの時などで、お見せできると思います。図鑑をひらいて、探してみてください（まわりの標本よりも展翅・展足が下手ですが、それはご愛嬌）。

●●●●●友の会よりお知らせ●●●●●

「友の会20周年事業」について

〈友の会20周年事業への寄付について〉

「友の会20周年記念誌」作成につきまして、下記の通り多大なご寄付を頂き、心より御礼申し上げます。

寄付実績（平成29年2月現在）
103名 333,000円

ご寄付いただいたすべての方のお名前を「記念誌」に掲載し、感謝の意を表したいと思っております（掲載をご希望でない方は、お手数ですがお知らせください）。寄付についてはこれで締切らせていただきますが、引続き友の会へのご支援・ご協力よろしくをお願いします。

「記念誌」については、平成29年度第1四半期の発行に向け、作業の方を進めております。皆様のご好意を受け、今後友の会がどのような形で活動が続けていくのか、など友の会の前進に向けて様々な問題提起ができれば幸いです。ご期待ください。

〈友の会総会イベントについて〉

情報クリップでもお知らせしていますが、2017年4月9日（日）の14時10分より、博物館SEISAミュージアムシアターにて、総会イベント「友の会20周年を迎えて」を開催します。

生命の星・地球博物館友の会は、平成29年4月で創立20周年を迎えます。設立当初の状況やその当時の目的と現状、今後の友の会への期待等を、当初から関わっていただいていた広谷学芸員や元友の会役員でもある出川元生命の星・地球博物館学芸員、その他友の会会員等による講演及びシンポジウムを行います。

皆さまにもぜひご参加いただき、一緒に友の会の今後について考えてみませんか。

行事案内

◆ 樹木観察基礎講座 「果物のなる木々」

果物は身近な果実でありながら、それらの木々についてあまり知らないのではないのでしょうか？

今年度は4回にわけて、果物のなる木の自然誌を学びます。

＜第1回＞「ウメやモモの仲間」

日 時：4月8日（土）13：00～15：30

締切り：3月27日（月） 必着

＜第2回＞「ナシとその仲間」

日 時：6月11日（日）13：00～15：30

締切り：5月29日（月） 必着

* 申込は各講座毎にお願いします。

場 所：博物館3階実習実験室

講 師：八田洋章氏（樹形研究会代表）

対 象：中学生以上30名／オープン（抽選）

参加費：友の会会員、中学生1,100円／人

高校生以上の非会員1,300円／人

（謝礼、資料、保険代等）

持ち物：筆記用具、ルーペ、ピンセット

連絡先：深山

＜第3回＞10／21「クリとその仲間」

＜第4回＞1／28「ウンシュウミカンとその仲間」

◆ よろずスタジオ

対 象：子ども（当日の来館者）／オープン

申込み：不要

参加費：無料

「アンモナイトのレプリカを作ろう！」

アンモナイトは大昔に生きていた動物です。博物館の壁にはいろいろなアンモナイトがいます。

アンモナイトを作ったら、次はみんなで見に行きましょう！

日 時：4月16日（日）13：00～15：00

場 所：博物館1階講義室（東側）

「足跡スタンプを作ろう！」

手足のかたちは動物の種類によって様々です。

足跡スタンプを作って、動物の手足をくらべてみよう！

日 時：5月21日（日）13：00～15：00

場 所：博物館1階講義室（東側）

「葉っぱの葉脈標本つくってみよう！」

葉っぱを見るとたくさんの細い筋が見えます。

これが水や栄養を運ぶ大事な管、葉脈です。

葉っぱを叩いて葉脈だけを残し、葉脈標本を作ってみましょう。さあ、どんな作品ができるかな？

日 時：6月25日(日) 13:00~15:00

場 所：博物館3階実習実験室

◆ 植物観察会『奥多摩・横沢入（よこさわいり）に春の植物を訪ねて』

東京都で最初に里山保全地区に指定された「横沢入地区」。春の谷戸の植物をゆっくり楽しみ、そこから続く丘陵では、樹木を中心に観察します。

日 時：4月26日(水) 雨天中止

場 所：東京都あきる野市横沢入

集 合：JR武蔵五日市線 武蔵増戸駅改札出口
10:00

解 散：武蔵五日市駅 15:00頃

講 師：勝山輝男学芸員

対 象：大人25名

参加費：500円/人（保険代他）

締切り：4月6日(木) 必着

担 当：友の会植物グループ

連絡先：佐々木

小久保

◆ 『箱根明星ヶ岳からの火山地形俯瞰と久野石露頭観察会』

箱根外輪山の一つで、別名大文字山とも呼ばれる明星ヶ岳からの箱根火山地形を俯瞰します。また箱根山全体の中でもこの一帯だけで観ることができると言われている「久野石」の露頭を観察します。

本コースは、宮城野橋から明星ヶ岳頂上を経由して登山道沿いの久野石を観察し、小田原市久野までの遠距離（全行程8km強）を「登山」+「トレッキング」する健脚者向けです。

期 日：5月13日(土)

場 所：明星ヶ岳～久野川林道周辺

集 合：箱根登山バス『宮城野橋バス停』10:00

解散場所：小田原市久野『和留沢入口』バス停
16:00頃

講 師：山下浩之学芸員

対 象：大人30名（抽選）

参加費：350円/人

締切り：4月25日(火) 必着

その他：状況により講座内容、場所、時間等の変更が有ります。

連絡先：中村（良）

◆ 菌事勉強会主催講演会

「世界遺産の無人島・聳島列島で自然環境再生に挑む」

皆さんは世界自然遺産と言われたら、原生林や澄んだ海に囲まれた手つかずの自然美にあふれる野生鳥獣の宝庫のような場所を思い浮かべるでしょうか？確かに世界自然遺産・小笠原諸島はそういうところなのですが、なぜか、外来種駆除と森林再生をこれからも長く続けていかなければならない宿命を背負っています。今回は、そうなった原因はなんだったのか、それをどうやって実行しているのか。そんな話を、現場の風景や生き物の写真をお見せしながらしてみたいと思います。

日 時：6月10日(土) 10:30~14:30

場 所：3階実習実験室

講 師：三宅八郎氏（日本山岳ガイド協会 自然ガイド、一般社団法人 森林計画センター 本部調査役）

対 象：中学生以上36名/オープン

締切り：5月26日(必着)

参加費：会員1,000円/人、会員外1,300円/人

連絡先：赤堀千里

◆ 「地話懇話会～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～」…第4水曜日/開催月

【6月度の話題】

日 時：6月28日(水) 15:00~16:30

（質疑応答時間を含む）

場 所：生命の星・地球博物館西側講義室

話 題：『同位体岩石学と歩んで…（Sr,Nd,Pb,希ガス同位体）』

話題提供者：池田保夫氏（元北海道教育大学教授）

*状況により話題（講座内容）等の変更があります。

対 象：友の会々員（原則）の当日来館者

参加費：無料（原則）…但し内容により有料（保険代、資料代等）

連絡先：中村（良）

◆ 植物観察会 『三つ峠周辺の植物散策』

山梨の名峰三つ峠の周辺で初夏の花や樹と出会い、森を深呼吸しましょう（バス利用）。

期 日：7月7日(金) 雨天中止

コース：三つ峠登山口（裏口登山口1,125m）⇔
三つ峠山荘（1,740m）周辺

(状況により希望者の頂上への往復もあります)
集 合：小田急線海老名駅北口中央改札口 7:30
解 散：海老名駅周辺 18:00頃
講 師：勝山輝男学芸員
対 象：大人25名
参加費：5,000円／人

お申込み締切り後の取り消しにはキャンセル料
(貸し切りバス代他)が発生します。

締切り：6月22日(木) 必着
担 当：友の会植物グループ
連絡先：松井
浅川

◆ 2017年度のサロン・ド・小田原について

従来通り、年度内4～5回の開催予定でいます。
現時点で開催日、内容について未定です。次回以降
の予定については、生命の星・地球博物館ホーム
ページや友の会ブログ、友の会通信にてご確認の上、
ご参加下さるよう、お願いします。

◆ 知の架け橋・博物館を見つけよう

■話題提供&ミニ博覧会 14:00～16:20 (1階西
側講義室) 3月25日(土)

サロン・ド・小田原は、学芸員や自然史の達人等
と気軽に語り合う集いです。

博物館にはさまざまな人や物がやって来ます。そ
れを後世に伝える知的財産として整理し、忘れがた
い印象的なものに味つけをすることが学芸員の仕事
です。演者が博物館と歩んだ25年を、卓越したアイ
デアと技術で支えてくれた仲間たちとともにふりか
えり、講演とワークショップ「ミニ博覧会」を行
います。

【話題提供：トークセッション】

14:00～(講義室) (フリードリンクあります)
話題その1：『博物館の架け橋(当館学機能』
(およそ20分)

講師：広谷浩子学芸員

内容：今回のワークショップ企画の意図説明をし
ます。

話題その2：『私のほねほね活動』(およそ30分)

講師：博物館標本土 相川 稔さん 他

内容：作品や取り組みを語ってもらいます

【ミニ博覧会】15:00ごろ～(およそ50分)(講義室)
進行：広谷浩子(当博物館学芸員)

博物館のイベントや学校の授業を盛り上げる楽し
い教育グッズを、「骨」「例えとなりきり」「動き

動かす」「パズルやクイズ」の4ブースで展示する
予定です(9つの展示があります)。各ブースの簡
単なプレゼンの後は自由観覧タイムです。自慢の
グッズをお楽しみください。最後に人気投票もして
いただきます。

【まとめ・提案】16:00ごろ～16:20

投票結果を発表し、教育グッズの作成と活用につ
いて語り合います。

参考文献：自然科学のとびら22-1

http://nh.kanagawa-museum.jp/files/data/pdf/tobira/22-1/tobira82_2hirotani.pdf

博物館友の会主催各行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事
務局までお送りください。FAXや電子メール
では受け付けできませんので、ご注意ください。
行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢(学
年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／
指定事項、ご不明な点は、友の会事務局へお
問合せください。

注意！

★参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料
代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事
項に記載があります。バスなど予約が必要な場
合、参加者個々に材料を購入する場合などの講
座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご
紹介いただくか、参加費を負担していただく場
合があります。

★オープンの行事は会員外の方も参加できます(参
加費が会員とは異なる場合があります)。

★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

★チラシの発行されない行事もありますので、直接
〈問合せ先〉へお問い合わせください。

★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信」第96号は、2017年6月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol. 20, No.4, 通巻95号 2017.3.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL:0465-21-1515 FAX:0465-23-8846
E-mail: kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog: <http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
twitter: @kpmtomo